

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 1 No 7

7号

平成5年12月1日

新生児医療の進歩を読んで

板井 睦

「新生児医療の進歩」を読んで、4年前の長男の出産の時のことを思い出しました。福島の日平均3人位のお産がある総合病院での里帰り出産でした。

誰がみても安産型で、マタニティスイミングでは、呼吸法もすっかりマスターして里帰りの翌日、35週で破水、即入院。全く開いていないので、安静にし、できれば37週まで持たせたいという事だったのですが、どんどん羊水が出てしまって、その翌日、破水から30時間後、帝王切開しました。

すぐに泣くかどうか心配だということで、小児科の先生にも立ち合っていた手術でした。2000g位という予測より少し大きい2260gで、弱々しくですがすぐに泣いてくれました。次の日、病室に運ばれる途中、新生児集中治療室に寄って、赤ちゃんを見せてもらいました。保育器のなかのわが子を見て、情けないのと小さく生れてかわいそうなのと生きていてくれてよかったという気持ちから、なみだがボロボロ出てきました。でもその時、看護婦さんが「心配なくて大丈夫よ。この子なんかもっともっと小さかったんだから」とどりの保育器の赤ちゃんを見せてくれました。「遼くん 680g」と書いてありました。その時はもう4ヶ月ぐらいたって、2000g位になっていましたが、今にも寝返りしそうなくらい元気で、保育器の中のマットとガラスの間に落ちてしまったり、処置をするための手をいれる穴から頭や足が出てしまったりしていました。680gで生れた子が、こんなに元気に育っているのを見て、とても安心しました。

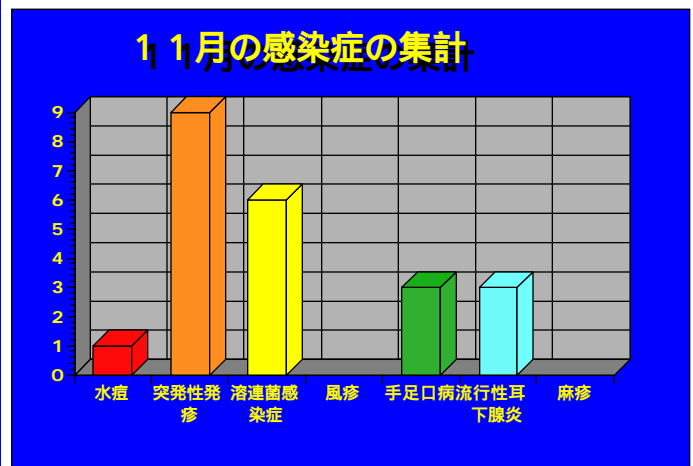
幸いおっぱいがすぐにはってきかたので、しばらく、飲ませてもらいました。夜中に母乳を持っていくと、静まりかえっている中に心拍を表わすピコンピコンという音だけが響きます。速くなったり遅くなったり、今でも耳に残っています。哺乳力も弱くなく順調に育って、この分だと親子一緒に退院できるかもしれないねと言われた矢先、生後一週間に熱が出て、肺炎になってしまいました。母乳も飲めず、また点滴が始まりました。細い手や足に点滴がささっているのは、本当にかわいそうで、見ていられません。たった一人病室で、おっぱいをしばらくは捨てているのはつらすぎるので、私一人退院することにしました。しかし先生や看護婦さんの、昼夜を問わず懸命な看護のおかげで、肺炎もおさまりました。(写真と本文とは関係ありません。)



実家でしばらく冷凍にした母乳を持っていき、それを飲ませてもらい、18日目2640gで退院しました。

ささいなことでも一喜一憂したたった18日間など、今思えばはずかしい話です。遼君のお母さんなどは5ヶ月間も毎日毎日母乳を届けて、もっともっと心配な事が、何度もあっただろうと思います。でも、きっとその度に先生や看護婦さんに助けられ励まされてきたのだらうと思います。遼君も間もなく退院して、少しはきが抜けるのではと思ったのですが、すぐにまた1100gの女の子が保育器に入っていました。休む間もなく緊張の日々が、また続くのだなあと思い、本当に頭の下がる思いでした。

おかげさまで、4ヶ月頃には標準の体重になり、大きな病気もせずすくすくと育っています。



11月の伝染性疾患をグラフにしました。突発性発疹は相変わらず多く、溶連菌感染症も先月に引き続いて見られています。水痘も見られ、一部で流行しているようです。おたふくかぜも同様です。

お知らせ

前回はお知らせしましたが、朝日新聞の朝日ウイールに小児科ニ知識の掲載を開始しました。当院の新聞と少し角度を変えて書いています。とっている方は、そちらも参考してください。

12月11日(土)の診療時間に変更があります。当日は9:00~12:00,13:00~15:00となります。

12月のお知らせ

年末年始休診	栄養育児相談
12月29日午後	1日、15日(水)
12月30日	13:30~
1月1日	参加無料、栄養士担当
1月2日	
1月3日	

12月31日は休日当番です



読者からの投書

乳児検診のいやな思い出

椎野 絵里

「乳児検診」でのイヤな思い出をお話します。1歳6ヶ月検診で「ことばの遅れ」を指摘され、別室に残され、「心理の先生」に、色々調べられました。その時の先生の言い方や態度が私には、キツク感じてしまいました。その日以来、子供の「ことば」が、確かに他の子より、少ないことを意識するようになりました。そして、悩んでいるんな本で調べたりもしました。

結果は「個人差」でした。そして、いつの日か急にお話しが、上手になったのです。子供は今小学2年生になり、先日の学芸会では、「ナレーション」に選ばれて、自慢の大声を披露してくれました。

同じく、知人のお子さんが検診で「水頭症」の疑いを指摘され、精密検査を受けました。その結果が出るまでの間、親戚中で心配していました。

結果は、「個人差」でした。ちょっぴり頭が大きいだけだったのです。

今もあの心理の先生は、いろんな赤ちゃんのお母さんを悩ませているのかしら・・・と思い出してしまいます。

医学マメ知識

その7

嘔吐について

寒さも厳しくなり、嘔吐下痢症の患者さんも増えてきました。今回は嘔吐について考えてみましょう

生れて2ヶ月ですが、

よく吐くので心配ですが

乳児健診で以外と多いのが、よく吐くという心配です。赤ちゃんは、哺乳という食事の形態なので、母乳またはミルクと一緒に空気も飲み込んでしまいます。また食道と胃のつながりが緩いため、空気といっしょに吐いてしまいます。時には、音をたてて鼻と口から吐くこともあり、びっくりしてしまうこともあります。吐いた後ケロツとして、哺乳したがるようなら心配いりません。また体重を定期的に計り、ちゃんと増加しているようなら大丈夫です。吐いた分は余計に飲んでいて考えてもよいでしょう。

吐くことが病気かどうか区別するには、

どうしたらいいでしょうか

先月号の下痢のときにも話しましたが、吐くことに伴う症状が見られたり、回数が多いときは、病気と考えるください。やはり吐きやすいのは乳児期早期までで、その後の嘔吐は、病気の可能性が高くなります。お母さんたちも吐くときには気持ち悪いはずで、元気もなく顔色も悪くなります。下痢や腹痛、発熱を伴えば、病気以外の何者でもありません。

吐く病気にはどんなものがありますか

咳や下痢と違って、嘔吐の原因には、様々な病気があります。普段最も多く見られるのは、ウイルス性胃腸炎です。一般におなかにくる風邪ともいわれるもので、風邪の症状があることもないこともあります。嘔吐で始まり、次第に下痢となる経過が多いようです。もちろん食あたりや食中毒も同様の経過をとります。このような場合は、心当たりの食品があるかどうか、来院前に確認することも大切です。

風邪の時に嘔吐や腹痛を繰り返し、尿にケトン(アセトン)体が出る自家中毒症も、幼児から小学校低学年に時々見られます。吐くときに尿を調べるのはこのためです。

腹部症状がなく、嘔吐だけ見られるような時には、中枢神経系(脳)の病気も考えられます。頭部外傷、脳炎、髄膜炎でも嘔吐が見られますが、ほとんどの場合神経症状が見られ、区別できます。腹痛を伴い、血便が出る時は腸重積も考えられます。

嘔吐は、他にもいろいろな病気で見られます。原因や、症状に注意を向けることが大切です。

嘔吐した時、家庭ではどのように

対処したらいいでしょうか

ケロツとしていて、母乳等をほしがる場合は、そのまま与えてかまいません。嘔吐だけで他に症状がないときは、1時間は、何も与えないようにします。嘔吐が止まったら8時間は透明な液体(イオン水等)だけにし、固形物は与えないようにしましょう。以後は徐々に普通の食事に戻しても構いません。透明な液体も少量ずつ増やしていくようにしましょう。冷たいものは、嘔吐を鎮める効果があります。液体の替りに氷を含ませることもよいでしょう。

嘔吐のときに病院を受診する目安は

何ですか

今までも述べてきたように、嘔吐があってもケロツとしてるようなら様子を見て大丈夫です。嘔吐が続くと、口から水分がとれなくなり、脱水症の危険があります。下痢を合併するとなおさらです。脱水症になると、元気がなくなり、ひどくなると意識がもうろうとしたり痙攣を起すこともあります。また嘔吐によって胃液が失われると体の中の酸性アルカリ性のバランスが崩れ、余計に吐きやすくなったり、元気がなくなったりします。こうなる前に病院を受診したいものです。年齢が低いほど、脱水になりやすいため早めの受診を心がけましょう。(一般には、6ヶ月以内12時間、6ヶ月以降24時間が目安)

嘔吐以外に、気になるような症状があるときも、早めに受診しましょう。

嘔吐の治療法について教えてください

軽症の場合は、口から吐き気止め(鎮吐剤)を投与しますが、嘔吐が続く場合には、坐薬を使います。顔色が悪く、脱水の兆候が診られるときや元気がないときには、点滴の適応となります。点滴をするだけで、歩けないような子が、笑って帰れるということもあります。点滴は安易に行うものではありませんが、症状によっては、その適応を理解するようにしましょう。

嘔吐は、色々な病気で起ります、原因や、他の症状に注意を払い、細かく観察するように心がけましょう。

編集後記

今月の新聞の発行遅れて申し訳ありません。

やっと念願がなって、患者さんからの投稿も集まりました。これからもどんどんお願いいたします。

寒さのなか、体に気をつけて、新年を向えてください。

よいお年を！！

